

## 背景

- 急性期病棟では看護部門計画でデイケアを取り組みたいとの話は出ていたが、コロナ対策で進んでいなかった。
- 回復期リハビリ病棟では実践計画でアクティビティチームができても、その年だけで継続できていなかった。
  - 当院の認知症・せん妄委員会が他医院認知症専門病棟にて院内デイケアの見学し、認知症の方・ご家族への支援の場を学ぶ
  - 当院でもぜひ院内デイケアを行っていきたい！！

## 問題点と解決策

### 余暇活動は必要だが、誰が・いつ・どのように活動すればよいのかわからない！

#### 他の業務を優先してしまう問題への対応

院内デイに参加している間は、病棟スタッフが見守りをする必要がなく、他の業務を行うことができる旨を丁寧に説明し、協力を求める。

#### マンパワー不足への対応

- 毎週(金)15時～15時40分
- 作業療法士・介護福祉士の人員確保
- デイ参加者のリハビリ時間調整

#### レク活動が苦手なスタッフへの対応

- 月間スケジュールを作り、プログラムを標準化する
- レク物品を充実させる
  - 病院としても院内デイを推奨していることから、必要物品の購入頼みやすい状況が追い風に

## 結果

### 院内デイを継続できている！

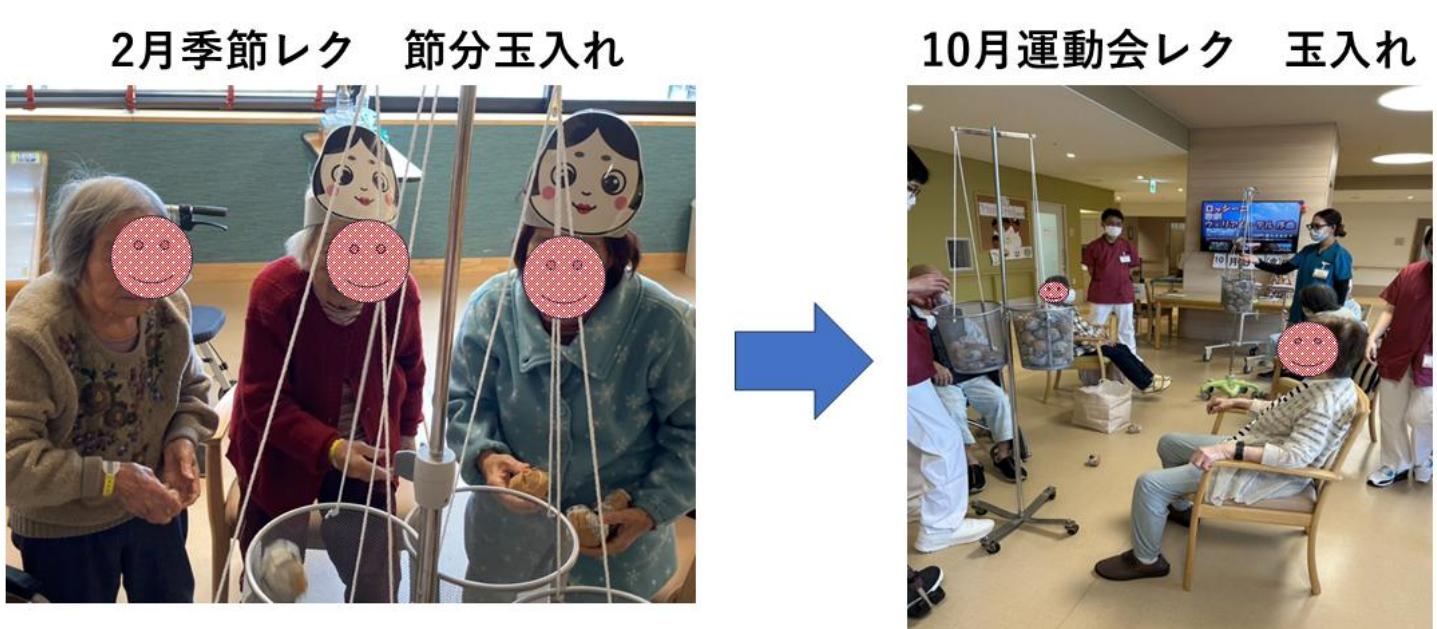
活動中は身体拘束(ミトン・安全ベルト)を外し、トイレや帰宅願望などが比較的落ち着いている。

集まりの中で役割を担う人ができている(他者との関係を得て、患者さん自身が関係を構築できている)

毎週院内デイ、朝の口腔操・季節行事が病棟に定着し、患者さんの喜ばれる様子が伺える。

院内デイや個別レクに参加している間は、病棟スタッフが安全の見守りをすることなく、短時間ではあるが他の業務に当たることができている。

#### 毎週金曜日15:00～院内デイの様子 バージョンアップ



#### クリスマス会 新人スタッフによるマルモリダンス



#### 季節ごとの創作活動



#### 元旦・獅子舞



## 目的

### 患者さんの空いている時間有意義な時間にする



集団・個別レクを実施し長期入院生活中のQOLの向上・認知低下の予防を目指す



安全ベルト・抑制帯・帰宅願望による立ち上がりや不穏のある患者さんに対して抑制するものの使用時間を短くする



レクリエーションの機会を通じて馴染みのスタッフ、患者さん同士が交流し、ホッとできる居場所をつくる  
入院生活のなかでの安心と楽しさを味わう

## 方法

#### 【院内デイ】

\* 毎週金曜日15:00～40分程度レクリエーション実施(集団レクリエーション)

\* 参加対象者:認知症・せん妄・不穏・身体抑制をしている・今後デイサービス利用の可能性がある・病棟生活でストレスがある・時間を持てあましている5～7名程度

※実施者:日勤介護福祉士1名～2名、作業療法士1名にて実施

\* 実施場所:ホール

#### 【日々のレクリエーション】

\* 朝食前の口腔体操

\* 個別レクを実施(キヤッピパズル・あべこべ文字・脳トレプリント)

\* 季節ごとの行事の開催

8月:夏祭り 12月:クリスマス会 1月:お正月(獅子舞) 2月:節分玉入れ

## 実践計画

## 活動チーム/月間スケジュール

	活動内容・目的・効果	活動種類
1週目	☆運動レクレーション(体を動かす) ・体を動かすことでリハビリ効果が期待される。 ・離床における耐久性向上 ・生活リズムの改善	・ラジオ体操 ・棒体操 ・タオル体操 ・リズム体操 ・ふれあい肩たたき
2週目	☆認知レクリエーション(脳を刺激する) ・脳を刺激することで脳内の血流を促進して認知機能の低下を防ぐ。 ・想起(回想)	・しりとり ・カルタ ・クイズ ・トランプ ・漢字パズル
3週目	☆認知・身体機能レクリエーション(脳・身体を刺激する) ・協調動作 ・二重課題追行(脳を使う・体を動かすを同時に使う・認知機能向上)	・しりとりボール回し ・カッターワー ・風船バレー ・うちわ風船バレー ・玉入れ
4週目	☆工作レクリエーション(季節感を感じる・満足感・表現) ・指先機能訓練 ・脳の活性化	・行事の準備工作 ・壁面制作 ・季節の工作 ・ペン習字 ・ちぎり絵 ・水彩画 ・折り紙 ・塗り絵

## 考察

### 私たちが楽しくないと続かない

患者さんのご様子から患者さん同士の交流を通じた居場所づくりになると考察できる。

⇒患者さんが笑顔でスタッフもやる気が出る！

継続的な病棟レクリエーション活動は、長期入院患者さんのQOL向上、身体抑制の削減に効果をもたらす可能性がある。

レクリエーションが苦手なスタッフでも気軽にレク物品を使って患者さんと交流し、苦手意識を自信に変えていくことが重要である。

⇒若者のアイデアを生かす(SNSの活用)

認知症状や睡眠時間の改善がレクリエーションの効果であることを数値的に評価することを目指す。

身体抑制OFFの実施件数や時間などのデータ記録を取り続ける必要性。

## 課題

- 評価指標を用いたレクレーションの効果の検証
- 特定の曜日以外の集団レクリエーション活動
- 現在の個別レクプログラムは集中がもって10分から15分程度

## 結論

### がんばらなくても継続できる！！！

私たちが楽しいから患者さんを楽しませることができる！

継続すれば職場が患者さんが仲間が認めてくれる！

質の高いレクリエーション活動を提供する